

## 第5学年3組 国語科提案資料

指導者 川嶋 多寿

〈単元名〉 いろいろな環境問題について調べよう 「森林のおくりもの」

### 1 授業改善の視点

本年度の研究テーマ「思いや考えを伝え合う力を育てる指導の在り方～国語科における多様な交流を通して～」を受け、説明文において、筆者の意図を想定しながら、文章全体の構成を把握し、敢えて結論を自分で書かせる。書いた結論に対して、ペア学習、グループ学習を効果的に取り入れ、考えを発表し合うことで、比較したり、広がりや深まりをもたせたりして、自分の考えが明確になるように交流を図る。

### 2 本時の視点

本時は、個人で考えた結論を、グループ毎に話し合って最良の形にまとめたものを発表する第2回目である。前時の第1回目の話合いの反省点などを生かしながら、よりよい話合い活動ができるようにしていく。

### 3 指導法の工夫や本時に至るまでの取り組みなど

〈指導法の工夫〉

- ・前時の話合い活動の反省点を授業の最初に確認し、話合い活動の向上を目指す。
- ・各グループの結論をまとめた結論集に、児童の考えを書き込ませておき、発表しやすいようにする。また、教師側も、書き込んだ結論集に目を通しておき、よいものに丸を付けるなど、発表に自信をもたせる。
- ・話合いは一斉の形で深めていくが、意見が滞ったり、もっと深めていく必要がある時は、グループでバズセッションを行う。時間の節約のため、各グループが最初からV字の形態で授業を展開する。
- ・発表が苦手な児童でも発表をしやすいように、隣の児童がサポートするようにする。

〈本時に至るまでの取り組み〉

- ・説明文の読み取りと並行して、環境問題について本や社会の教科書、インターネットなどで、各自調べ学習を行ってきた。
- ・本時までに、説明文の要旨、文章の構成について、バズセッションなどを取り入れながら学習し、筆者の主張も理解できるようにした。

〈今後の取り組み〉

- ・今まで調べたことを生かし、自分の興味のある環境問題を選び、ブックガイドを書いていくことで、様々な問題に気づき、考えを広げていく。
- ・説明文の学習では、今回の学習を生かし、考えを伝え合い、交流していくことで、さらに深く読み取ることができるようとする。また、説明文に対する苦手意識もなくすことができるようしていく。
- ・根拠や理由をもとに、自分の考えを伝えることができるよう、継続して支援していく。

## 第5学年3組 国語科学習指導案

指導者 川嶋 多寿

1 単元名 いろいろな環境問題について調べよう「森林のおくりもの」

2 単元の目標

- 森林や環境問題について関心をもち、筆者の述べ方の工夫を感じ取りながら、読み取ろうとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- 設定した課題に適応した資料を調べ、ブックガイドを作ったり、自分の考えをまとめたりすることができます。  
(書くこと)
- 題名や述べ方の工夫に注意しながら、明確に読むことができる。  
(読むこと)
- 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを深めることができます。  
(読むこと)
- 文章の構成について理解することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元設定にあたって

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の国語「C 読むこと ウオ」及び「B 書くこと アカ」に関連し、特に「ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること」を受けて設定した単元である。

それを踏まえ、この単元では、筆者がどのような事実を事例として挙げ理由や根拠としているのか、また、どのような感想や意見、判断や主張などをを行い、自分の考えを論証したり、読み手を説得しようとするのかなどについて、筆者の意図や思考を想定しながら、文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていくことがねらいとなる。

説明文教材「森林のおくりもの」は、日本人の生活を支えてきた森林の恵みについて具体例をもとに、分かりやすく論理的に展開した説明文である。本論は大きく二つに分けられる。前半は「木材」のすばらしさや、それがわたしたちの生活をどれだけ支えているのかを考えさせる内容になっている。後半は、「別のおくりもの」としての水の保全や災害を防ぐ働き、豊かな土壌の供給など、森林の働きを具体的に分かりやすく述べている。文章の構成は、序論・本論1・本論2・結論で構成され、問い合わせに対して、事実に基づいて筆者の考えを述べている。段落相互の関係も明確であり、児童が文章の内容を的確に押さえて、要旨をとらえ、論述の工夫も理解しやすい教材である。

また、児童は9月に、社会科の「自動車をつくる工業」の単元で、ハイブリッドカーについて学習し、環境問題を意識するようになってきている。そこでこの時期に、森林をテーマとした、自分たちの生活と自然との関わりを考えさせる教材に出会わせることは、児童が問題意識をもつて取り組んだり、深い思考力を養ったりするうえで有効であると考える。

(2) 児童の実態 (男子18名 女子16名 計34名)

アンケート項目	回答
1 国語のどの活動が好きですか。(複数回答)	話すこと 10人 聞くこと 6人 書くこと 17人 読むこと 17人
2 説明文と物語文はどちらが分かりやすいですか。	物語文 26人 説明文 8人
3 根拠や理由をもとに、自分の考えを伝えることができますか。	はい 26人 いいえ 8人

左記の結果から、国語の「読むこと」「書くこと」に学級の児童の半数が好きだと感じていることが分かる。今回の学習は説明文の読み取りとブックガイド作りなので、「話すこと」「聞くこと」を目標とした単元より、児童の意欲付けは容易だと考える。

ただ、説明文と物語文を比較すると、説明文の文の構成や、内容を児童は難しいと感じており、普段の授業の中でも説明文より物語文の内容の読み取りの学習の方が発表も多い。

そこで、物語文のように説明文も児童が身近に感じができるように、実態に対応した2つの工夫を取り入れることにしたい。1つは、説明文の本論をとらえて、各自が結論を書くことである。もう1つは、それをグループでまとめたものを発表し、本論との一致を全員で検討する交流の学習の設定である。

交流の学習の場では、根拠や理由をもとに意見を述べ合うので、ペア学習、グループ学習、バズセッションを効果的に行い、自分の考えを伝えることができないという意識をもっている児童をサポートしていく。そして、周りのサポートや意見をもらうことで、自分の中の考えがまとまっていく経験もでき、自分の考えも伝えてみたいという思いや自信が高まっていくだろうと考える。

(3) 指導観

学習の導入部分では、まず題名や結論について考えさせ、本論の内容を知りたいという意欲をもたせたい。

読み取りの学習では、段落ごとに、問い合わせとその答えの文章を探し、具体例、事実などを押さえながら、内容を明確に読み取ることができるようにならべたい。その時に、読み取りのヒントを児童が与え合うことができるよう、グループ学習を取り入れながら進める。

読み取りが終わった段階で、児童がもっと説明文を身近に感じたり、実際の環境問題に対して自分はどうしたいのかという考えを主張したりするために、結論をまとめさせる。その際、本論の続きとして書くことを指示することで、つかんだ本論の内容や筆者の主張を生かすこと、つまりは、文章を明確にとらえる必要性をもたせることができると考える。

今回設定した交流の場では、各自の結論を生かしながらグループで作成した結論を、本論の内容との合致や、結論としての在り方などについて話し合わせていく。話し合いでは、相手のグループの結論に対して、根拠や理由をもとに意見を述べさせてるので、何度も本文を確かめる必要性がある。そのような、交流の場を設定することで、根拠や理由を文章の中から見つける力も伸ばしていくことができると考えるので、今後の国語の活動にも発展させていくことが期待できる。また、児童は全員結論を書いているので、お互いの結論に興味をもち、納得できないところやよいところを見つけ、自分の考えを広げたり深めたりすることができるだろうと考える。

結論をまとめることは、児童にとって難しい課題であることが予想されるので、事前に森林などに関する環境問題について、本や資料で調べて、それを利用したり、グループで話し合ったりさせることで、スムーズに結論を書くことができるようにならう。

この教材の学習のまとめとして、ブックガイドを作成していくが、ブックガイドは、自分の興味から課題を決定し、その課題に答えるためには、「どんな本のどの情報が必要か」ということについてまとめたものである。書く内容を収集し、課題のねらいに即して整理して書いていく学習を行うことで、「書くこと」の力も向上していくだろうと考える。

単元全体を通して、自分たちの生活と関連付けながら、様々な資料で調べることで、実際に問題意識をもって、学習に取り組ませていきたい。

#### 4 学習・評価計画（1~3時間扱い）

段階	時	学習活動	評価規準		評価方法
			おおむね満足できる状況	観点	
導入	1	・学習の見通しをもたせる。 ・全文を読んで、感想を話し合う。 ・結論を書くこと、ブックガイド作りをするなどを知る。 ・題名と結論部分について、筆者の意図を話し合う。	・森林や環境問題について、関心をもち、問題意識をもって学習に取り組もうとしている。	関意態	発表ノート
	2		・題名は何を意味しているのか、結論部分の内容をつかんで、筆者が結論まで、文章をどうまとめているのか話し合うことができる。	読むこと	発表ノート
基礎力をつける	3	・日本人の「木の暮らし」について読み取り、木材の使われ方をまとめる。	・木材の性質とその使われ方について、表に整理することができる。	読むこと	発表
	4	・木が木材になっても生きていることや、紙の利用、燃料としての利用について読み取る。	・木が切られても生きていることや木材以外の用途について読み取ることができる。	読むこと	ノート
	5	・森林の「別のおりもの」とは何かを読み取る。	・森林の「別のおりもの」とはどんなものか読み取ることができる。	読むこと	ノート
	6	・結論を読み、筆者の考えをまとめたり、筆者の述べ方の工夫を理解したりする。	・文章の書き方、構成を理解することができる。	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	ノート 発表
	7	・自分の考えをもとに、結論を書く。	・本論の流れをとらえながら、本や資料をもとに、結論部分を書くことができる。	書くこと	ノート
	8	・結論部分をグループで話し合つてまとめておき、全グループの結論集には、自分の考えを書き込んでおく。	・よりよい結論になるように、意見を述べ合ったり、自分の書いた結論と全グループの結論集を比較したりして、自分の考えを深めることができる。	読むこと	話し合 結論集
	9, 10 本時	・結論部分をグループでまとめたものを、発表し合う。（1時間に3グループずつ発表） ・それぞれの発表について、自分たちのグループとの共通点、相違点に注目したり、結論としてどうなのか、意見を交換し合う。 ・筆者の結論部分に注目し、再度筆者の結論の内容について確認する。	・結論として良い点、改善点を見つけたり、本文の内容と照らし合わせたりして、意見を交換し合い、自分の考えを深めることができる。	読むこと	表 ワークシート
	11	・ブックガイド作りに向けて、自分の課題についての資料を収集する。	・本から必要な情報を読み取ることができる。	読むこと	ノート 本の付箋
	12	・ブックガイドを書く。	・資料から答えとしてふさわしい部分を選び、まとめて分かりやすく書くことができる。	書くこと	ブックガイド
	13	・ブックガイドを互いに読み合い成果を分かち合う。	・友達のブックガイドから、情報を読み取ることができる。	読むこと	ブックガイド

## 5 本時の学習

### (1) 目標

グループ毎に考えた結論部分を発表し、自分たちのグループとの共通点、相違点に気付いたり、よい点、改善点を見付けたりして、意見を交換し合うことができる。

### (2) 準備・資料

結論集（6グループの結論） ワークシート 結論をまとめた模造紙（6グループ）

筆者の結論を書いた模造紙

### (3) 展開

（※はテーマとの関連、□は評価）

時間	学習活動・内容	活動への支援・留意点
5	<p>1 本時の課題を把握する。 グループごとに結論を発表し、よい点、改善点を話し合おう。 〈話し合うポイント〉</p> <p>①「森林のおくりもの」の結論部分として考えたときの、良い点と改善点は何だろう。</p> <p>②今まで読み取った本論の内容と合っているだろうか。</p> <p>③結論としてふさわしいだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時は2回目の発表会となるので、前時の反省点を伝え、話合い活動の向上を目指す。</li> <li>・事前に自分の考えを書き込んでおいた結論集（6グループがまとめた結論）を確認させ、発表する準備をさせる。</li> <li>・話し合うポイント3点を確認し、どのような話合いをしていくのかを理解させる。</li> <li>・発表に向けて、発表のしかた、強調したいところなど、グループごとに最終打ち合わせをさせる。</li> </ul>
30	<p>2 グループごとに、結論を発表し、話合いをする。 （未発表の3グループ）</p> <p>・話し合うポイントをもとに、各自の意見を発表し合う。</p> <p>〈予測される意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の使い方の指摘</li> <li>・本論の内容との不一致</li> <li>・本論を生かしていない。</li> <li>・本論を生かしている。</li> <li>・自分のグループとの共通点がある。</li> <li>・自分のグループとの相違点があるがわかりやすい。</li> <li>・現在の環境問題にふれていてよい。</li> <li>・これから私たちがすべきことがわかる。</li> <li>・結論として考えがまとまっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※意見を述べるとき、根拠をもとに言えるものは、意識するように指示する。</li> <li>※出てきた意見に対して考えたことを発表していく、発表を個々に違うものにせず、学級全体で深めていく。</li> <li>※出てきた意見を、板書などで整理していく。</li> <li>・各グループの結論を模造紙にまとめたものを黒板に貼り、それに線を引きながら、意見を発表してもよいようにする。</li> <li>・出された意見をメモしたい時は、ワークシートのメモ欄に書くようにさせる。</li> </ul> <p>※意見があまり出ない場合は、グループでバズセッションの時間をもつ。その時は、予め決めておいた司会者が話を進行する。（すぐに話し合うことができるよう、V字型に席を並べておく）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から意見を発表できない児童には、机間指導して、結論集に書き込んだ考えを認め、自信をもたせる。または、隣の児童に発表できるように協力させる。</li> </ul> <p>評価〈読む〉</p> <p>自分の書いた結論と発表を比較し、共通点、相違点に気付いたり、意見を発表し合ったりして、自分の考えを深めることができたか。</p> <p>（発表・ワークシート・結論集）</p>
5	3 筆者の結論部分に注目し、再度筆者の結論の内容、書き方について確認し、感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの文章と比較し、よさに気付かせるようにする。</li> </ul>
5	4 本時のまとめとして、考えたことや感想を自分の言葉でまとめ、自己評価する。 （個別）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の話合いで考えたこと、感想をまとめさせ、自分の考えの変容などに気付かせる。</li> <li>・次時は、今まで調べたことを深め、ブックガイド作りを行うことを知らせる。</li> </ul>

【グループで使用した資料】

グループ 1

私は今までたくさん森林にお世話をなり  
守らせてきました。  
今地球では地球温暖化があるのです。  
木・地球は私達をふくらみの動物達にと  
てかけがえのないものであり。でもアミと通は  
たにすてていろただんだん環境が悪くな  
このまま続ければ多くの生き物達が死んで  
いって地球はほうびうかししゃません。でも  
ボランティアに参加したり自分達にでき  
ること毎日の生活の中で実行すればいい  
す。この地球上で人間だけが便利で都合よく  
皆が悪いんだ」と深く心がけてボランティア  
生きていいく事はできやうのです。この昔の昔  
がどのことを考えて生活したら環境もツレは  
なくなつてしまふといふ事を考えた事があ  
りませんか。身近なものは森林のも  
のでできています。森林がなくなれば身近  
るものなどはなくなつてしまふのです。  
森林にふる面は木をうちおし空気をじう化

して二酸化炭素を吸収しきれいな空気を出  
してくれます。  
私が今まで広がろうとふせづるかもしれない  
これから未来の人のために大音から植えつけ  
いでのに森林をこれから七守ソ競りなければ  
ならぬのです。

（良い点）  
問いかね  
（改善点）

環境の一題がよく長くまとまっている。

言いたいことがある。  
森林がうばわれている。

問いかね

森林がよく長くまとまっている。

（改善点）

合格

いいことが入っていないから。

自分達が入っているのに

沙ばくの二つばかりについてまとめている。

とがある。

へ結論として合格か不合格かの理由や根拠も言えるように

合いでいる。

いいことが入っていないから。

このように、わたしたちは、森林のお世話を  
になりつけたのです。

森林は人間や車、家庭の二酸化炭素をきゅう  
うしゃうしてくれています。そしてこまゆう  
をする正めに必要な酸素も供給してくれてい  
るのです。森林を増やせば地球の環境問題も  
解決する可能性が大きくなります。でも今は、  
森林がへっています。森林は、木をためて  
ることや空気をきれいにすることや木材を生  
産することと土しゃくされやこう水をふせぐこ  
となどわたしらには、かかせないとても大  
切な宝なのです。今、自然界は、人類の手によ  
る破がりの道をつき進んでいます。このま  
までは、地球があれ果ててしまります。この  
点を修正していくには、たりへんなことです  
が、今まで見てきたような、人類が森にして  
きたことをよく考えてみることが大切です。

(良い点)

内容にいといところがある

最後の二行の文が少しあり余っていな  
い。

(改善点)

少し、だんらくが少ない

(要旨と合っているか) 理由や根拠も言えるように

十二行目から十四行目まで、人間だけで  
会えない所がある。島ぜんそくでいふなんどここにも  
しまづかないうはるほど

(結論として合格か不合格か) 理由や根拠も言えるように

最終。内容は少しせっかりしていなかつ

グループ3

このようないわしたちは、森林のお世話を  
になり続けますのです。

地球温暖化が進んでいま、森林は、二酸化炭素を吸収して酸素としてたくねえるはたすあります。

そのほかにも、森林はわたしたちの生活に  
も重大な役割をはたしています。

例えば、木の家具は、ほんと木で  
つくられていました。木は、木が使われていま  
す。

なごの紙にも、木が使われています。

けだも、森林から見聞ごとに、甲子園球場の  
伝の店との森林がなくなっています。

森林をなくさないために、身近にできること  
リサトルなどをして、森林を守ることがで  
す。

森林に感謝しなりければならないのです。

(良い点)  
森林の守り難いことを理解している

(改善点)

森林の守り難いことを理解している

(要旨と合っているか)※理由や根拠も言えるように  
(合っていると書く)

森林の守り難いことを理解している

森林の守り難いことを理解している

この手の文、わたしの文は、森林の文章

ばかり練習して来たのさ。

今、森林ではどんどん木が切り取られて

いて、それが、木を切る。あくまで木のな

い生物を奪った／＼と生みつけられた。木が生

し蘇生ができないでしまいます。でも

のとく木は死んでしまいます。

わたしたち土壌へして木を育むように木を

いのか、立派な問題であります。

たま、立派な問題を止めようとしますが、

そして地盤に住んでいる木が森を大切に

しながら、木を育むことをどう考え

ますか？

わたしたちは、先祖から受けついだ森林を

私たちの手で守りて、森林を育んでしまおう

良い点

OK

いい点

△、△、△

△、△、△

△、△、△

△、△、△

△、△、△

△、△、△

△、△、△

△、△、△

△、△、△

意見

(要旨と合っているか) ※理由や根拠も言えるように

会議の運営がよく、意見交換が十分に行われた。

木の成長が見えた。

(結果として合格か不合格か) ※理由や根拠も言えるように

森林が育つようだ。自然が育つようだ。自然が育つようだ。